

風光



「福祉は権利」を合言葉に、共同の輪を広げよう！

共同シンポジウムに集って

のぎく分會 稲垣 節子

各地から集まった福祉職場で働く人、経営する人、利用している人たち。それぞれの立場からの発言は、普段聞くことのできない訴えを聞く貴重な機会となりました。特に保育所で働いている私にとって印象深かったのは、さいたま市保育園保護者で「赤ちゃんの急死を考える会」の阿部一美さんの発言でした。

待機児童解消の名のもとに切り下げられた基準で、苦しい保育をしている園もあり、子どもたちの命が危ないことを改めて感じました。低い基準で行われる保育では、死亡事故が起きていくのです。この流れの中で、国が示した基準が、守ってきた制度を拡充させるのではなく、緩和していかうとする動きがあることに矛盾を感じます。そして、これから新制度導入や営利



企業の参入が増えることで、保育をする・預ける人たちの中で「保育はサービス」という誤った認識が増えることにより、子どもの生きる権利さえも守れなくなるのではないのかと思ひ、不安でたまりません。きつと、障害職場、介護職場など他の現場でもこれに近いことが起こっていることかと思ひます。

国政にかかわる大人たち（国会議員等々）も、きつと色んな立場から考え、国を作ろうとしていると思ひます。しかし、考える視点や制度などを作っていく過程で、私たちの本当の願ひが理解されていないことに、とても胸が苦しくなります。子どもたちの命・権利を守るのは自己責任ですか？子どもたちがいつの時代も安心して過せる世の中が実現しますように。

今回このようなシンポジウムに参加し、話を聞く中で、普段知りえなかった世の中の動きが少しずつ見えてきた気がします。各地の実情を知

り、悲しくもなりましたが、こうやって、一堂に会してみんなで情勢を学び、現状を知る中でつながることの大切さも感じました。泣き寝入りはしたくありません。どんな人も人間らしく生きられるように、本当の気持ちを運動に替えて、訴えていけたらと思ひています。

中央行動・交渉に参加して

田代分會 加賀 恵里子

厚生労働省の方々が、保育には専門的な知識や経験が必要だと認識し、『准保育士』に対して難色を示していたことは、少し安心しました。それでも、どこか他人事のような印象が常に感じられ、『私達の役割はここまでのので、あとは各々で』と受け取らざるを得ない発言にとっても不安を感じました。

例えば、『自治体からの説明で、認定こども園にならないと生き残れない』と思わせるような発言をさせないでほしい』という要望に対しても、『厚生労働省としてはそんなつもりはないから、あとは各園の判断で』と、なんだか噛み合わない返答が繰り返されるだけでした。もし本当に『そんなつもりは

ない』のなら、間違った形で伝えられていることはきちんと訂正してほしいと思ひます。それが出来ないのであれば、『そんなつもりはない』という言葉を信じることは出来ないし、仮にその言葉が本当だとしても、あまりにも無責任でいい加減で他人任せな姿勢だと思ひます。

『待機児童ゼロ』とか『処遇改善』とか、いろいろ聞きますが、本来その目的が目的だつたのではなく、『すべての子どもに平等でよい保育を受けさせたい』ということが目的であり、『待機児童ゼロ』や『処遇改善』は、その目的を果たすための手段だったのでないでしょうか。それなのに、いつの間にか手段が目的ようになってしまったから、その場しのぎの対応や、ただ『数字的にゼロ』なだけで、中身も気持ちもおいてけぼりのような現状になってしまっている気がしました。

理想論かもしれませんが、想ひの伴わない形だけの政策では、何も変わらない気がして仕方ありません。

しかし、そういう私も、自分なりの『理想の保育』がまだよくわかりません。自分自身もう一度、自分にとっての『理想の保育』を、改めて考えてみようと思ひました。

被災地見学ツアーに参加して学んだこと、感じたこと

ほしぎき分会 石橋栄子

今回、私がこのツアーに参加した理由は、震災が起きてからずっと、被災地に行つて自分の目で確かめたいという思いがあったからです。

この企画が土日という、とても参加しやすい日程だったので、「これなら行くことができる」と思い参加を決めました。

このツアーの良かった点は、福保労というつながりで現地の組合員の方が2日間ずっと付き添って下さり、被災地の説明をして下さったことです。そのおかげで多くのことを学ぶことができました。

私たち参加者は20代〜60代の組合員8名・9か月の赤ちゃんで、仙台空港に着きました。迎えに来て下さった組合員の方たちからさっそく空港の被害の様子の説明を受けました。ロビーの柱には「津波の高さ3m」が印されていました。私は被災当時、テレビや新聞で、仙台空港に止まっていた飛行機がオモチャのようにプカプカと浮いている光景を思い出しましたが、現在はきれいに改装されていました。



2台の車に分乗して、私達がまず向かったのは漁港の女川町です。高台にある女川病院の1階の柱には津波の水位の跡が印されていました。港からずいぶん高い所にあるのに、こんなところまで津波が押し寄せてきたことに驚かせられました。現在の漁港のまわりには、シヨベルカーやクレーン車、トラックが何台も動いていて土地を整備していました。その中に3階建ての商工会議所の建物も、錆びてそのままの形で横たわっていて、津波の力のすごさを表していました。

そこから石巻に向かい、なかよし保育園（園児数60人）を訪問し、大橋園長先生から被災した時の様子を詳しくお聞きしました。保育園の近くには川があるた

め、そこから津波が昇ってきて、前の道路は車の屋根がつかるくらい水が押し寄せ、床上30cmまで浸水したそうです。震災当日、最終的に迎えに来られなかった園児は5人。その日のおやつに作った「ふかし芋」や、干めんを使って作った「うどん」で何とか食べつないでいたとのことでした。

近くの避難所の小学校へ避難しなかったのは、備蓄の食糧・水、また布団・ストープもあり2階もあるから、保育園の方が安心と判断したそうです。最後の1人を保護者に引き渡すことができるまで、震災から丸2日が経ったそうです。同席された職員の方から「今でも津波警報が出ると、足がすくんでしまう」という発言もありました。（大橋園長先生は現在「ちいさななかま」に「なかよし保育園の被災日誌」を連載されています）

1日目の夜は宮城支部の組合員さんたちとの夕食交流



会がありました。仲野さんが事前にクイズと商品を用意されていたので、楽しく交流しました。その後、労働条件の話のときに賃金が安いことをポツリと話され、私たち名古屋の「公私間格差是正制度」の有難さを実感しました。

2日目は最初に東松島に行きました。組合の東北ブロックで震災の1か月前に利用したという「かんぼの宿」には、震災の爪痕がのこされていました。建物は中身をえぐりとられ、外壁と屋根だけが無残な姿になっていました。外灯の支柱は地面から60cm位の高さで直角に折れ曲がっていて、津波の力の大きさを表していました。

その後は東松島の仮設住宅にすんでいる千葉さんに会い、話を聴きました。「パーパキッちゃん班」として、手作りろうそくを作っておられ、おみやげに新作の色つきのろうそくをいただきました。



【風の音】
保育士4年目、0歳児の担任をしています。毎日子どもたちの可愛い笑顔に囲まれながら楽しく保育しています。それでもやっぱり疲れやストレスがたまります。そのため、同期の子と一緒に毎年必ずどこかに行こう！と決め、旅行に出かけてリフレッシュしています。

最近では、「仙台牛を食べるに仙台へ行こう！でも、交通費が高い！」ということから、20時間以上かけてフェリーで仙台に行きました。行きも帰りも。とーっても長旅でしたが、美味しい仙台牛に舌鼓を打って大満足の旅でした。他にも、年越しをバリ島で過ごしたり、時には、研修を利用してうまいこと旅行したりしています。今は北海道旅行に向けて計画を立てています。計画を立てている間も楽しくてウキウキわくわく。そんな「お楽しみ」があるからこそ、仕事や組合活動も頑張れます。

ペテランの先生やパートナーから「若いうちにいろんなことを経験したり、いろんな場所へ出かけたりした方がいいよっ！」とよく言われます。そのため、とにかくいろんなところに出かけようと思います。香川県に本場の讃岐うどんを食べに行ったり、別府温泉でのんびりしたり、いつか47都道府県を制覇したいなと思っています。

でもそのためには休みがないと。だから、やっぱり組合活動を頑張つて、有給休暇をしっかりとれるような労働環境にしたいかなと思います。

おろつ

だきました。「平地が少ないため、山を切り崩して平地を作り、災害公営住宅が建設される予定だが、まだ2、3年かかる」「先の見えない長いトンネルに入ってしまった感じがしている」「私の夫は少しうつ状態になり、そのため私もやせてしまった」と話されていました。

その帰りの車中で仮設住宅を眺め見た時、思わず涙が出てきました。コンテナのような四角い白い建物。まだしばらくここで過ごさなくてはならないと思うと、胸が締め付けられる思いでした。

そして日本三景の松島へ行きました。松島はたくさん島が点在しているので、津波が来たとき波が分散され被害があまり大きくならなかったようです。

私たちが行ったときは観光客でとても賑わっていました。フェリーに乗って松島を観光した後塩釜に着きました。「しおがま復興市場」での天然物ホキは、とてもおいしかったです。塩釜からは電車に乗って仙台市内に戻り、そこから被害の大きかった名取市に車で向かいました。

閉校になってしまった閑上(ゆりあげ)小学校の体育館には、写真やランドセル・遺影など、家族の大切な思い出の品々が並べられていました。「3年



たった今でもここに残っているということは、持ち主がすでに亡くなっている可能性が高い」と説明がありました。結婚式の写真をみると、そこに幸せな生活があったの...と思いました。最後に特別養護老人ホームを見学しました。そこは平屋なので、津波が来た時、2階へ逃げることもできず、ほとんどのお年寄りや職員が亡くなったそうです。窓ガラスの上の方に津波の跡が残っていて、この高さではどうすることもできなかったろうと想像できます。近くの住宅も家の土台しか残っていませんでした。職員の方々はどんな思いで亡くなっていったのかと思うと胸が痛みました。

この2日間同行して下さいました加藤さん、小幡さんにお礼を言つて仙台を立ちました。加藤さんは組合員300人の宮城支部の

専従で、もと保育士の1歳児の父親。小幡さんは現役の保育士で3人の子どもの父親。震災が起きた時は、全保連から、1年限定で「被災地担当」を命じられ、職場を離れ被災地の調査、支援のために加藤さんらと動かれたそうです。それゆえ、これだけ詳しく私たちに伝えて下さることができたと思います。

たった2日間の日程でしたが、

中身の濃いツアーでした。

感想として思ったのは、復興予算25兆円が適切に施行されているというふうには見えなかったということ。3年もたっているのに進まない宅地再建、1日でも早く再建するため、日

本中の知恵と力をコーディネートするのが政府の役割だと思えます。震災が起きた時、多くの人がガレキの撤去などの人的支援のため現地に集まりました。今も何等かの形で支援を続けている方たちもたくさんいます。まだ避難生活者が27万人もいるのに震災を風化させてはいけません。政府は復興計画を見直し、被災者の思いと一致した再建を進めてほしいと思います。

私たち福保労としても、引き続き支援していきたいと思いましたが、そのためには地元の人たちとの気持ちに共感することが大切なので、これからも福保労から多くの人に被災地に行つてほしいと思います。

「シリーズ・私のおすすめ」 みよし分会 岡 薫さん

はじめまして。みよし分会の岡薫です。私は、料理を作ること、食べることが好きです。そして、今ハマっていることは「レモン塩」です。レモン塩は料理に合う万能調味料以外にストレス解消にもなるんですよ。レモンの爽やかな香りは脳を刺激していい気持ちにさせてくれます。そして、レモン塩を少し湯船に入れてバスソルトとしても楽しめます。簡単に作れるので紹介しようと思います。

材料・国産レモン(ワックスがかかっていないもの)粗塩1キロ。密閉容器。

作り方・1・レモンについた汚れ、へたを拭き取ります。2・レモンの半分はスライスして、

被災地の復興はまだ道半ばです。この見学ツアーも一つのきっかけにし、これからの長い支援を進めたいと思います。



もう半分は乱切りにします。3・密閉容器に底が隠れるまで塩を入れ、次にレモンと交互に重ねていきます。4・外気に触れてレモンが腐らないように最後に塩を加えてフタをして、一週間ほどして、水分が浮き上がってきたら出来上がりです。

ここで私、肉好きなので、オススメのレモン塩を使った簡単鶏肉料理を紹介しますね。

作り方・1・鶏肉モモ肉をポリ袋に入れてレモン塩を加えてもみこみます。2・フライパンにオリブオイルをひいて皮から焼いて、黒胡椒をかけて出来上がり！簡単ですよ。

お肉がサッパリ風味で柔らかく美味しいです。また、この暑い夏にもいい一品です。



今年も3つの分会ができました！分会結成おめでとう！

さくらんぼの会分会 濱田

さくらんぼの会では単組としての労働組合が2004年5月21日より結成され、今回の定期大会で結成から丸10年を迎えることとなりました。福保労へは2010年6月から個人加入という形をとりましたが、今定期大会を節目としてさくらんぼという限定的な視点でなく、地域福祉の増進という広い視点を持つために、単組であるさくらんぼの会労働組合を発展的解消し、福保労への分会化を行いました。

しかし現状は一部の組合員で活動を担っており、必ずしも組織的に活動できているわけではありません。現在執行委員（役員）は6名、所属する現場の偏りもあり定例の会議開催も不十分です。執行委員が十分な活動を作りきれないという課題も一方であります。

「労働環境の悪さから大変な思いをして働いている職員が、そうした思いを誰にも相談できず一人で抱え込み退職していく現状を何とか変えていこう。自分たちの仕事に対して主体性を持って取り組んでいこう」という組合結成時の思いを改めて振り返り新たなスタートを切っていきたいと思えます。

2004年の組合結成時と大きく違うのは福保労という全国

規模の仲間がいるという事です。そうした仲間を支えてもらいながら「さくらんぼの職員で良かった」と思える職場作り、30年、40年と障害のある仲間、家族と共に人生を歩む職員を増やしていくために頑張っていきたいと思えます。

東部地域療育センター

ぽけっと分会 石井

2014年5月21日、東部地域療育センターぽけっと分会が結成されました。

結成に向けては、ちよだ分会の分会員の「東部地域療育センターで分会をつくる！」という強く熱い思いを中心に準備を進めてきました。東部地域療育センターは、同じ法人の様々な職場の職員と、他の職場での経験を積んできた職員、新人職員が



集まって職員集団を作っています。経験してきたことも人それぞれですが、「より良く働き続けるために」という思いは変わりがありません。

結成総会にて講演をしていただいた小早川弘江元顧問の、「未組織の人たちにも目を配る」「自分を振り返ることで他の人たちを振り返ることが出来る」というお話を聞き、組合の位置がいかに大切かということに改めて心に刻み込みました。

毎日忙しく過ごしている職員のちよっとした変化に気づいたら「これってどういう事なんだろう?」という思いを率直に話し、改善していけるような分会を皆で作っていききたいです。

もちろん、楽しい事も忘れません。ぽけっと分会では「お楽しみ部」「アクティビティ」と組合員が楽しめる活動もしながら、未組織の人たちも巻き込んでいきたいと思っています。目指すは組織率100%！仲間がいるって嬉しいね！と皆が思っています。宜しくお願ひします！

おおしま保育園分会 黒田

こんにちは。おおしま保育園分会です。おおしま保育園は名古屋千種区大島町にあり、昨年4月に開園しました。これまではいりなか保育園分会として、

同じ法人であるいりなか保育園とおおしま保育園合同で分会活動をしてきました。開園から1年が過ぎ、お互いにそれぞれの園の職場環境の中で分会活動をして、よりよい職場づくりをしていこうと、6月1日よりおおしま保育園分会を結成することとなりました。分会員は現在10名です。

分会員はほとんどが1〜2年目の職員ということもあり、組合活動の経験が少なく、分からないことがたくさんあって大変ですが、みんなで助け合いながら、仕事や組合活動をがんばっていければいいなあと思っています。なによりもまずは、分会員一人ひとりが「しんどいよ〜」と率直に悩みを話し合えるような分会にしていきたいと思っています。職員全員が健康で生き

生きと働き続けていけるように、一人ひとりの要求にお互いが耳を傾けて大切に、仲間の存在を心強く感じられたらいいなと思います。

経験も人数も少ない私たちですが、気負わず楽しく組合活動をしていきたいと思えます。皆様に教えていただくこともたくさんあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



【編集後記】

来年度の「子ども・子育て支援新制度」の施行に向けて、保育をめぐる情勢がどんどん変わろうとしています。新制度は非常に分かりにくい制度で、詳細が決まっていなくて多いということに不安も大きいです。知らないままに進んで行ってしまわないように、学んでいくことが大事だと感じている毎日です。

新制度の検討の中で「給食費の実費徴収」が提案されましたが、多くの反対の声があり、取り下げられる方向となりました。また、「准保育士」や「子育て支援員」という新しい資格の創設の提案や、様々な保育

施設がつくられようとしています。保育士不足解消、待機児童解消という名目で「保育の質」の低下が起きないか心配されています。危惧しなければいけないことがたくさんあるのが新制度です。働く環境の変化や子どもを取り巻く環境の変化についていけるだろうか、より良い保育をしていけるのだろうかと不安に感じます。

一つ一つの制度や動きが、これからの保育や福祉をどうしていくのか、知っていかねばいけないし、反対の声を上げること、署名で私たちの思いを届けていくことを続けていきたいです。ハバ・テラックス